

穴水ササユリ会 通信12月号

NO.8

2025年12月 5日

穴水ササユリ会事務局

越の原ササユリ群生地での種採取

11月26日、穴水ササユリ会会員6名が参加して越の原ササユリ群生地で「ササユリの種」の採取と電気柵の下などの草刈り、看板周辺の雑木の剪定作業などを行いました。合わせてササユリの位置を確認するためのポールも回収し、来年5月頃に再設置する予定です。

ササユリの果実は作業当初30個ほど採取しましたが(新聞報道はこの時点)、電気柵の修理をしながら確認して行ったところ、さらに10個ほど取れましたので、合計で40個ほどになりました。種の数は、果実1個で約300個くらいありますから、約12,000個の種を採取したことになります。

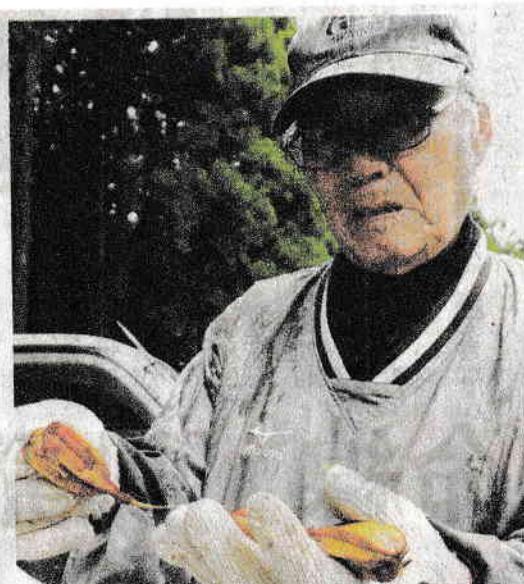
この種は来年3月(後日、案内します。)中旬に群生地に蒔く予定です。会員の皆さんにはまたご協力をお願いすることになります。よろしくお願いいたします。

当日の参加者名

道本 嶽夫会長
池上 悟
勝井 寛
幸崎 久史
滝井 元之
協力 熊谷 朋也
(関西学院大学4年生)
(敬称略)

当時は、あいにくの雨で作業がやりにくかったのですが、なんとかやり切ることができました。

この日、兵庫県の関西学院大学4年生の熊谷朋也さんがボランティア活動のため穴水町に来ていたので、活動に参加してもらいました。



ササユリの果実を持つ滝井元之さん=穴水町越の原

穴水町花のササユリの保全活動をしている「穴水ササユリ会」は26日、同町越の原の群生地で、来春に向

ササユリ 来春へ種採取 穴水の会

10年ほど前、群生地はイノシシの食害などで壊滅状態に追い込まれていたが、会員らが手をかけ現在は約500株にまで回復。この

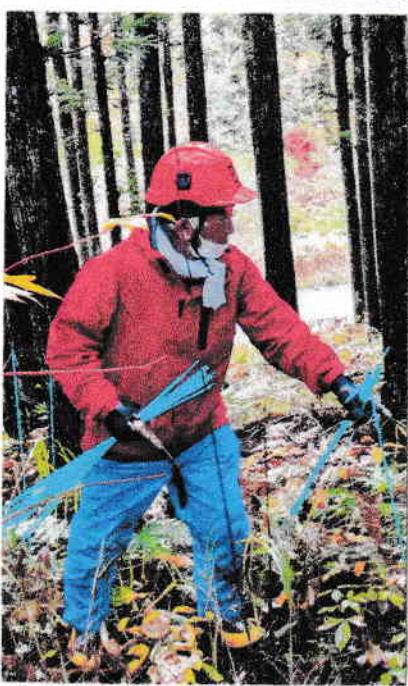
日は会員ら6人が、長さ4メートルほどの果実約30個を摘み取った。1個当たり約300粒の種が入っており、来年3月に周辺にまく。メンバ一の滝井元之さんは「株の数はだいぶ増えた。道路から花の匂いを嗅ぐことができるくらいの大群生地に育てたい」と意気込んだ。(山谷恵裕)

(北陸朝日新聞 11月27日付朝刊)

町の花
ササユリの

当日の活動の様子

再生をめざす



ササユリの種採取
穴水の保全団体
県の進絶滅危惧種に指定
されている穴水町花「ササ

ユリ」の保全に取り組む穴
水ササユリ会は26日、同町
越の原の群生地で、来春に
まく種を採取した(写真)。
会員6人がササユリの実
から約1万粒の種を取り、
イノシシの侵入を防ぐ電気
柵の動作を確かめ、草刈り
機で下草を刈った。種まき
は来年3月に行う予定。

(北國新聞 11月29日朝刊)